

# Interview

## 駐日ラテンアメリカ大使 インタビュー

第27回 アルゼンチン

アラン・ペロー

駐日アルゼンチン大使

### 画期的に強化された日本・ アルゼンチン関係

— 幅広いビジネス・チャンス —



アルゼンチン共和国のアラン・クラウディオ・ペロー駐日大使は、このほどラテンアメリカ協会のインタビューに応じ、マクリ政権の優先課題、日本アルゼンチン外交関係樹立（修好）120周年と両国関係、日本のビジネス・チャンス、OECD、「太平洋同盟」等との関係、EU 其他との FTA 交渉などについて見解を表明した。

ペロー大使は駐ベネズエラ大使館参事官、外務省法律顧問、国際捕鯨委員会委員、駐欧州連合代表部公使、外務省西欧部長、外務省国際経済紛争解決部長などを歴任後、2016年4月から駐日アルゼンチン共和国特命全権大使。

インタビューの一問一答は次のとおり。

— 大使は日本に着任されて約2年になられますが、日本についてどのような印象をお持ちですか？これまでの日本滞在で最も印象深い思い出は？

**大使** 日本は伝統的な面でも近代的な面でも傑出しています。日本には幾世代にもわたって受け継がれてきた多くの基本的価値、例えば他者や秩序を尊重するといった文化的遺産が古くからあります。同時に、人々の生活水準を向上させるため日常生活においていかに最新の技術を適用しているか、目を見張るものがあります。

また、広島・長崎訪問はきわめて印象的でした。痛ましい歴史、強烈な過去を背負いながら、同時に逆境に立ち向かい再生・復興する姿も日本国民の不変の価値です。強い衝撃を受けました。

— アルゼンチンの現マクリ政権は前政権の政策を大幅に軌道修正するとともに欧米や日本との関係改善

に積極的であり、日本の経済界も現政権には大きな期待を寄せています。同政権は昨年10月の上下両院の中間選挙でも国民の信任を獲得し、いよいよ構造改革が正念場を迎えますが、マクリ政権にとっての今後の最優先の課題、挑戦は何でしょうか。

**大使** アルゼンチンを再び世界の貿易・投資の潮流に乗せるということが現政権のとった最初の措置でした。先ずは懸案の対外債務支払い問題を解決し、国際金融市場に復帰しました。貿易・投資を阻害していた諸措置を撤廃し、貿易の増進および外資誘致に必要な環境を整備しました。これからの第二段階における優先的政策は経済成長、雇用創出、貧困とインフレの削減および輸出競争力の改善や地方経済の輸出を念頭においたインフラの近代化です。さらには「グリーン・アジェンダ」の強化を進めることです。

— ラテンアメリカ（中南米）では現在チリとメキシ

コだけが加盟しているOECD加盟をマクリ政権は目指しています。アルゼンチン政府は、OECD加盟のメリットとデメリットはどういったものであるとアルゼンチンの国民に説明していますか？

**大使** OECD加盟はアルゼンチン政府の政策立案能力を改善するとともに、アルゼンチン経済をよりグローバルな舞台に乗せることになるでしょう。かかる見地からアルゼンチンとしてはOECD加盟に必要なステップをとっています。

— アルゼンチンの労働組合が持つ力と労働組合がもたらす経済的コストは、アルゼンチン経済の足かせとなっていると指摘する専門家がいますが、いかがでしょうか。

**大使** マクリ政権は対話と交渉によって社会的コンセンサスを得ようと努めています。これはアルゼンチン社会の重要な伝統的アクターである労働組合についても言えます。個々の具体的セクターのいくつかの経済的アクターとの間で既にきわめて興味深い合意が形成されています。例えば、世界で2番目に大きなバカ・ムエルタのシェール・ガスおよびシェール・オイルの開発です。この合意により極めて低コストでの操業が可能となりました。

— 今年は日本とアルゼンチンの修好120周年の節目に当たります。2016年には安倍総理大臣が57年ぶりにアルゼンチンを公式訪問し、また昨年はマクリ大統領が来日されました。今年はアルゼンチンがG20首脳会議議長国、来年は日本が議長国ということもあり、4年連続の首脳の相互訪問が実現しそうです。日本とアルゼンチンの二国間関係の現状についてどのように見ておられますか。また、120周年後の両国関係を一層促進、発展させるためには何が必要だとお考えですか。

**大使** 現在、アルゼンチンと日本の二国間関係は最善の状況にあります。マクリ政権発足後、両国の絆は画期的に強化されています。たった1年の間に両国は戦略的提携関係を確立しました。両国首脳の会合は、両国間の貿易・投資関係を決定的に増進させようとの意思を経済界に示しました。日本の対アルゼンチン進出企業数は2016年に比べ50%以上増え、さらに増加しつつあります。日本企業のアルゼンチンへの調査団派遣数も大幅に増えています。日本の大企業がアルゼンチンのパートナーと共同の新規ビジネスについて合意す

るケースも増大しています。修好120周年記念はこのような新たな戦略的関係のなかで祝われています。

両国が共有する歴史は、アルゼンチンにおける日本人社会とともに、実に永い伝統があります。両国間関係は十分に成熟しており、今後さらなる成長が期待されています。両国の信頼関係は、日本の食肉がアルゼンチン市場に参入し、アルゼンチンの食肉が日本市場に参入できるという歴史的事実の一手手前まで来ていることにも見られます。日本の方々も世界の他の国民と同じく、高品質の素晴らしいアルゼンチン産牛肉を味わえるようになるでしょう。

— アルゼンチンは4,000万人を超える中南米4位の人口、ブラジル、メキシコに次ぐ中南米3位のGDP、そして豊富な天然資源を誇る国であり、中南米ビジネスを長期的に捉える際に外せない国だと思いますが、日本にとって特にどの分野にビジネスのチャンスはあるとお考えでしょうか？

**大使** アルゼンチン経済の成長率は年3%で、日本企業のビジネス・チャンスは多種多様です。インフラが遅れているので、アルゼンチンは現在史上最大の投資計画を実行中です。インフラおよび運輸への投資機会に加え、従来のエネルギー部門および従来型ではない特に太陽光、風力などの再生可能エネルギーがあります。鉱業部門も銅およびリチウムに限らず、無限の可能性があります。食品産業および農牧関連製造業はアルゼンチンの経済および輸出の原動力であり、日本の投資家が特に関心を示している分野です。また、ソフトウェア、電子商取引、バイオテクノロジーおよび観光といった創造的産業もあります。自動車および部品は現在日本の最大の投資分野です。

— 2016年5月には双方でビジネス環境委員会及び日亜貿易投資合同委員会の設置が合意され、その後定期的な開催を通じて両国の投資やビジネス関係の促進が図られていると聞きます。また、2017年5月には二国間投資協定の実質合意が発表されましたが、その後の進捗は如何ですか。

**大使** 本年4月に東京で日亜貿易投資促進委員会が開催される予定です。2017年5月に設置された農業委員会が本年2月にブエノスアイレスで行われました。二国間の投資協定は実質的に合意されており、現在別表に記載されるいくつかの補完的要素を確認するのみとなっています。間もなく署名できると期待しています。

— **メルコスールとEUの自由貿易（FTA）交渉の進捗状況はいかがですか。また、メルコスールはカナダ、韓国等とも交渉を開始するそうですが、日本とはいかがですか。**

**大使** メルコスールとEUの交渉は最終段階にあり、数か月内に妥結できると考えています。メルコスールはカナダとのEPA交渉の開始を発表したばかりで、韓国やその他の国との交渉も予定されています。メルコスールと日本の間にも対話のメカニズムがあり、これまでに4回の会合を実施しました。メルコスール加盟国としてはこの対話を発展させ、日本との関係の深化を図りたいと考えています。

— **メルコスールないしアルゼンチンと「太平洋同盟」との関係にも新しい動きが見られるとのことですが、いかがでしょうか。**

**大使** アルゼンチンは「太平洋同盟」にオブザーバーとして参加しています。これはメルコスールの強化並びに他の諸国および地域との通商交渉の拡大という目標と軌を一にしています。我々は地域的パートナーとの関係を優先しています。

— **TPP11の成立についてメルコスールおよびアルゼンチンはどう見ておられますか。**

**大使** アルゼンチンもメルコスールも、貿易ならびに投資を促進するすべての交渉および協定を支持しています。アルゼンチンは2017年の第11回WTO閣僚会議の開催地・議長国でした。またアルゼンチンは2018年のG20開催国です。アルゼンチンはG20の議長としてのモットーである多角的通商システム、グローバルな交易への貢献および公正で持続可能な開発にコミットしています。

— **主として経済を中心にお話しを伺いましたが、日本とアルゼンチンの文化、学術、人的交流についてはどう見ておられますか。日本に期待されることは？**

**大使** 政治、経済のテーマと同じく文化についても具体的な例を挙げることにします。日・アルゼンチン修好120周年を祝うためAmuse Inc.と提携し、フェルサ・ブルタWAの特別ショーを行いました。これはアルゼンチン独自のショーを日本風アレンジしたもので、東京において大成功を収めました。もう一つは森美術館で行ったレアンドロ・エルリッヒの特別展“Seeing and Believing”で、40万人以上の訪問者が

ありました。また民音の協力を得て全国でタンゴの普及活動を続けました。文化と芸術はますます我々の結びつきを強化しています。また、ラテンアメリカの国としては初めて日本とのワーキング・ホリデー協定が締結され、「学ぶ」「働く」「暮らす」といった海外生活が総合的に体験できる制度で昨年10月から実施されています。

— **『ラテンアメリカ時報』の読者に対してなにかメッセージはありますか。**

**大使** ラテンアメリカ協会の親愛なる本誌読者に対し、アルゼンチンおよびラテンアメリカ地域に関心を寄せて頂いていることにつき厚く御礼申し上げます。アルゼンチンについてのより多くの情報に接し、アルゼンチンと日本の社会の結びつきを強化し、友好関係を深めることに貢献頂ければ幸いです。また本誌読者にも両国修好120周年記念行事に参加いただき、互いにアルゼンチンと日本を念頭に置きつつ、共に両国の未来を建設していければと願っています。

(インタビュアー ラテンアメリカ協会副会長 伊藤昌輝)